

内管復旧管理班

内管復旧計画立案および営業部内各班との連絡調整を任務とした。内管修繕班の体制を需要家の建物形態・供給規模によりA班・B班に分けて組織し、両班を統括するとともに、開栓班・導管修繕班等のガス局内関連班やJGA復旧隊と連携して内管復旧に取り組んだ。

内管修繕は主に開栓時の漏えい通報・修繕依頼を受けた対応となるため、内管復旧管理班は開栓の方針が定まるまで閉栓応援に当たった。閉栓作業のための訪問カード仕分け・住宅地図のコピー・閉栓結果のデータ入力に加え、代替燃料関係の受入・払出やガスサロンへの対応等も同班が担った。

閉栓後期から開栓が始まる3月23日までに、内管修繕班、開栓班、導管復旧管理班、第一・第二導管修繕班および仙台ガス工事協同組合による事前協議を行い、内管復旧の体制づくりに取り組んだ。営業推進部長を統括者とし、営業企画課長がその補佐として総合調整・指揮にあたる組織体制は、需要家の建物形態・供給規模により修繕班を大きく2班に分けた。

リビング営業課長を班長とする内管修繕A班は住宅・中小規模店舗等への対応を担い、さらに班内を木質系・鉄筋系・取出フォロー等に細分化した。都市エネルギー営業課長を班長とする内管修繕B班はガス専焼需要家を含む大口需要家等への対応を担い、班内を大口修繕班・大口開栓班に分けた。また、泉営業所・南営業所の職員を担当業務内容に応じてA・B班に振り分け、営業所が業務再開する4月25日までの期間は内管修繕応援に当たった。

この組織体制における各担当班数・人員数は、導管修繕・開栓の進捗状況によって日々調整を行っていた。右図はピーク時(4月7日)のものである。なお、内管修繕B班内の大口開栓班はJGA特約開栓隊と連携しており、大口開栓班1名とJGA特約開栓隊3名で1班を構成し、10班体制で大口需要家等の開栓を担った。

■内管復旧・修繕班 組織体制図 (4月7日のピーク時)

